

予算委員会質問要旨

令和2年6月10日

日本維新の会 森 夏枝

- 1 拉致問題について 【総理大臣】
- 2 アビガンの承認見通しと妊婦が使用可能な治療薬の
開発について
【総理大臣・厚生大臣】
- 3 PCR等検査体制の充実について
【総理大臣・厚生大臣】
- 4 貧困家庭や貧困学生への食糧支援について 【総理大臣】

要求大臣 内閣総理大臣・厚生労働大臣

お母さんは84歳になりました 残された時間 本当にならずか

めぐみへの手紙

横田 滋
横田 早紀江

めぐみちゃん、こんにち
は。そう、のんきに呼びか
けるのも戸惑う思いです。
元気にしていますか。今年
もあつという間に2月で
す。お母さんは4日で84歳
になりました。どんだん年
を取るだけで、誕生日はち
っともうれしくありませ
ん。けれど、めぐみちゃん
はきつと、明るく祝ってく
れるはずですよ。「すごい、
おはあちゃんになっちゃっ
たね!」とおちゃめに笑

い、抱きついてくる姿を、
心に思い描いています。
お母さんは今、一生懸命
に毎日を生きています。体
中に衰えを感じ、日々しん
どく感じます。そして、病
院で必死にリハビリするお
父さんの姿を見ると、「一
刻も早く、めぐみと会わせ
てあげなければ」という焦
りで全身がしびれます。
これが老いの現実です。
お父さんと、お母さんだけ
ではありません。すべての



横田早紀江さん(右)と笑顔で
手をつなぐ3歳のめぐみさん
—昭和43年、東京都内

家族が古い、病み、疲れ果
てながら、それでも、被害
者に祖国の土を踏ませ、抱
き合いたいと願う、命の炎
を燃やしているのです。

治家や官僚の皆さまは、ど
う考えておられるのでしょ
うか。私たちはテレビで、
のどかにさえ見える方々の
姿を、見つめ続けていま
す。皆さまには、拉致の残
酷な現実をもっと、直視し
ていただきたいのです。

次は誕生日こそ、あなた
と一緒に祝いたい。それを
実現させるのは、日本国で
あり、政府です。政治のあ
りようを見ると、「本当に
解決するのか。被害者帰国
の道筋を考えているのか」
と不安や、むなしささえ、
感じることはありません。
「なんの罪なく拉致され
たままの子供を、肉親を、
返してください」。この
簡単な思いがかなわず、絶
望的なほど長い時が過ぎて
しまった現実には、拉致事件
の闇の深さを感じます。そ
こに、光を差さなければな
りません。令和という時代
に初めて迎えた誕生日に、
被害者全員の一刻も早い救
出の願いを込め、日本の明

るい未来を祈ります。
めぐみと一緒に過ごせた
のは、あなたが13歳になる
までのわずかな時間でした
が、生まれたばかりのあな
たを抱き上げた瞬間から、
たくさんの幸せをもらいま
した。本当にかげがえのな
い、宝物だった。今、めぐ
みが拉致されるまでの明る
い日常を思い出すたび、そ
う実感します。そんなあな
ただからこそ、必ず、天の
大きな力と、多くの皆さま
に守られ、教えられ、生き
抜いているはずですよ。

お父さんも、お母さんも
拉致事件をどうすれば解決
できるのか、考えない日は
ありません。日本と北朝鮮
の最高指導者が真剣に向き
合い、平和と幸せな未来に
ついて話し合う。その日
が、すぐにでも来るような
気がしていました。が、事態
は静まり返っています。
(題字は横田早紀江さん)